

私が考える明るい社会

太田市立城西中学校 二年 藤本 紘

「社会を明るくするためには何をすれば良いのだろうか」

この作文を書く前、私はずっと悩んでいました。なぜなら、私の身近で犯罪が起ったことがないからです。なので、社会を明るくすることに自分は関係ないと思っていました。そんなときに私は吉野万理子さんの「強制終了、いっか再起動」という本を読みました。

この本は、主人公の加地が大学生の家庭教師に誘われて大麻をやってしまうところから始まり、その後、加地は伊佐木というクラスメイトのユーチューバーを手伝うことになり、ます。そのときに伊佐木は加地の様子がおかしいことに気づきます。そして、加地は大麻をやっっていたことを伊佐木に告白します。けれども、伊佐木もユーチューバーの集まりで、薬物をやりそうになります。そんな二人に、薬物で逮捕されたことがある人が話をしてく

れます。そのおかげで二人の考え方は変わっ
ていくという物語です。

私はこの本を読んで「薬物は身近にある」
ということに驚きました。なぜかというところ、

薬物をやっている人がいる世界と、私が暮ら
している世界は別のように感じていたからで

す。それぐらい、私と薬物は無関係だと思っ
ていました。

しかし、加地の気持ちもわかります。加地

は父親の仕事が理由で、新潟の学校から東京

の学校に転校してきました。加地は運動神経

が悪く、体育の授業のたびにクラスメイトに

笑われていました。さらに、勉強にもついて

いけず悩んでいたときに、大麻をやってみな

いかと誘われました。加地は三つの理由で大

麻をやってしまいました。一つ目は、大麻を

誘ってきた人が異常に見えなかったからです。

二つ目は、こんなチャンス二度とないと思っ

たからです。三つ目は、自分のことを笑って

いるクラスメイトが想像つかない世界を知っ

てやりたいたいという気持ちがあったからです。
私は、大麻は全体に使ってはいけないうと思
います。しかし、加地の考えに共感できると
ころもあります。例えば、加地のように毎日
クラスメイトに笑われていれば、三つ目のよ
うな考え方になると思っています。
では、どうすれば三つ目のような考え方が
消えるでしょうか。私は周りの人の行動が大
切だと思えます。周りにいるクラスメイトが
運動神経が悪い加地のことを笑ったりしなけ
れば加地のストレスは少なくなり、大麻をや
ろうという気持ちを減らせることができたと思
います。
この周りの人の行動は、大麻をやってしま
った後も大切だと思えます。加地と伊佐木に
話をした、薬物で逮捕されたことのある人は
こう言っていました。
「今の日本は、薬物を抑止しようという考え
方なのね。薬物に手を出さないように、その
怖さをじゅぶんに伝える。でも、一方で、

薬物に手を出した人に対しては「あいつの人
生終わっただけ」という見方をしてしまいがちだ
よね。アメリカなんかとは、ずいぶん考え方が
違うのね。でも、それを、間違ってる！
てーから変えていくのは、今すぐには難しい
と思う。少しずつ、変わっていく
かもしれないけどね。はみ出た人間を、突き
落とすんじゃないかと、引ッ張り戻してあげよ
う、っていう社会にね。

私はこの言葉を聞いて、はみ出た人間を引
ッ張り戻してあげるためにはやっぱり、周り
の人の行動がとても大切だと思いました。な
ので、周りの人たちが犯罪をしてしまった人
のことを悪者と見るのではなく、どうやってた
うその人が社会に戻れるかを考えるべきです。
確かに犯罪をしてしまった人は怖く見えるか
もしれませんが、けれども、犯罪をしてしまっ
た人の中にはきっと、心を改めて立ち直りた
いという人がいるはずですよ。その人が立ち直
るためには、周りの人の行動が必要ですよ。

私はこの作文を書いて、人が犯罪をする前
も、した後も周りの人の行動が大切だと考え
ました。なので、これから悩んでいる友達
がいたら話を聞いたり、ニュースなどで見る
犯罪をしてしまった人のことを悪者と決めつ
けないようにします。そして、明るい社会を
つくることに協力したいです。